（豊かな体験活動推進事業ブロック交流会研究発表－全体会）

北海道洞爺高等学校

1　取組のねらいや内容

（1）学校の教育目標の具現化

本校の教育目標
　1　「明るい心、素直な心」を持つ豊かな人間性の育成を目指す。
　2　社会の変化に主体的に対応できる「たくましく生きる力」の育成を目指す。

本校の教育目標は、時代を超えても変わらない価値（不易）を「明るい心、素直な心」に求めるとともに、激しく変化する社会の中で創造的で柔軟に対応できる資質や能力（流行）を「たくましく生きる力」ととらえ、この二つを併せて育成することを目指している。

豊かな体験活動は、学校の教育目標の具現化に重要な役割を果たすと考える。事業実施に当たっては、具現化のための手立てを位置付けた指導方針を明らかにすることに留意した。

（2）「地域との連携」をキーワードとした学校経営方針

本年度、本校の経営方針は、「全教職員の英知が結集した自主的・自律的な特色ある学校づくりを目指す」ことを基本とした。

特に、家庭や地域の声に耳を傾け、地域に開かれた信頼される学校経営を推進するとともに、教職員一人一人の資質の向上を図り、生徒が安心して生き生きと学ぶ学習環境を整えていくことを目指すものである。

そのため、教育活動全体に地域ぐるみで豊かな体験活動を実践するという視点を据え、明るく素直で、たくましく生きる力を身に付けた生徒の育成を目指すことを最重要課題とした。

これは、中学校卒業生徒の激減に対応し、地域住民と共に存続に耐える魅力ある学校づくりを目指すものであることはもとより、教職員に対して本校の進むべき方向を示すことにしたものである。

（3）地域の教育力の活用

豊かな体験活動の効果的な推進のためには「洞爺村豊かな体験活動推進地域協議会」と連携することが大切である。そのため、本協議会の「データベース・ネットワーク推進分科会」が研究を進めている地域の教育資源の教材化を図り、学社融合のノウハウなどを活用し、より地域との連携を深めた特色ある教育活動を目指していくこととした。

2　教育課程上の位置付け

（1）「総合的な学習の時間」との関連

本校では、新学習指導要領の移行措置として平成１３年度から「総合的な学習の時間」を実施してきた。委託を受けた「豊かな体験活動推進事業」と本校の「総合的な学習の時間」の趣旨が共通する面もあることから、本事業と関連付けて実施することとした。

＜平成１４年度開設講座一覧＞

№	開　設　講　座	学習場所	生徒数	備考（講師・協力者等）
1	農業体験	佐伯農園	9	村連Ｐ会長、農業
2	花栽培体験	村の苗ハウス	１０	ﾌﾗﾜｰｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
3	切り絵体験	本校演習室	１１	本校卒業生で元中学校教員、同窓会会長
4	保育体験	村の保育園	１０	保育士
5	カヌーづくり体験	カヌー工房	7	本校舎監、カヌーづくり代表
6	茶道体験	本校和室	１０	裏千家準教授
7	絵葉書写真体験	村内及び本校	１０	本校事務長
8	アウトドア体験	洞爺少年自然の家	9	北海道立洞爺少年自然の家専門職員
9	カヌー操舵体験	洞爺湖	１０	ﾚｲｸｽﾎﾟｰﾂ協会会長、元教員
10	リースづくり体験	本校	8	NORA の会会長、農業
11	クリーンとうや	洞爺湖畔	全校	小・中・高校湖畔清掃ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
12	花いっぱい花壇	村内施設	全校	病院、洞爺少年自然の家、学校前道路の花壇づくり
13	全校カヌー	洞爺湖、湖畔	全校	レイクスポーツ協会
14	スノーモービル体験	高台平原	全校	スノーワールド洞爺
15	その他の洞爺ＤＡＹ	洞爺村	全校	年間１２回の実施

（2）「洞爺ＤＡＹ」の実施

月１回の土曜日に実施している「洞爺ＤＡＹ」を、本事業と関連・発展させた活動として位置付けている。次年度からは、規模や経費、生徒の興味・関心などを考慮して、体験活動によっては、生徒が主体的に企画運営できるよう内容を整理するなどの検討を行っている。

3　活動の概要（実施に当たり苦労した点や工夫した点）

（1）豊かな体験活動と「総合的な学習の時間」

ア　地域社会との連携を図った体験活動

昨年度まで、本校では「総合的な学習の時間」を土曜日の「ノーカバンＤＡＹ」として実施してきた。本年度からは、完全学校週５日制の実施に伴い、隔週金曜日に本事業と関連させて設定した。

この時間におけるすべての講座の講師を地域の方々に依頼し、地域との連携による授業として教育課程に位置付けた。授業をできる限り校外で実施し、教師も生徒と共に学ぶ中で、生徒の活動が地域住民に見えるように配慮した。

イ　自然にかかわる体験活動「カヌーづくりと操舵体験」

洞爺村では、湖に関連した様々な取組を行っている。その一つがカヌー体験である。本校の体験活動は、湖畔にカヌー工房を所有し、製作、管理、貸出し、技術指導を行っている、村のスポーツ団体である「レイクスポーツ協会」の協力を得ている。

昨年までは操舵体験のみを「総合的な学習の時間」の中で行っていたが、本年度は、内容を充実・発展させる観点から、カヌー製作も取り入れることとした。

（2）完全学校週５日制に対応した豊かな体験活動

ア　洞爺ＤＡＹの創設

本校生徒の９割が寮生である。土・日曜日などの休日は寄宿舎を閉鎖して生徒を帰宅させることを原則としていたが、本年度からは完全学校週５日制に対応するため、希望する生徒が洞爺村に残り、本村ならではの体験活動に取り組める休日として設定することとした。

その日を「洞爺ＤＡＹ」と名付け、洞爺のよさに触れさせ、第二のふる里づくりの機会とした。

生徒の参加は予想以上に多く、積極的に地域のよさにかかわり、楽しさを満喫しているようである。地域住民の関心も次第に高まり、物心両面から活動を支援するとともに、生徒が洞爺村で活動する姿に期待と感謝の言葉を寄せている。

イ　「洞爺ＤＡＹ」における自然にかかわる体験活動

全校カヌーやスノーモービル体験などの自然にかかわる体験活動は、地域の理解と協力を得て実施しており、その活動は学校と地域との連携をより強化し、地域の活性化にもつながっている。

4　活動の評価方法

本校においては、生徒の実態から、自己有用感の高揚や自尊感情の育成をはじめ、学習に対するねばり強さなどの育成が課題となっている。

そこで、本校の体験活動がこれらの生徒に対してどのような学習効果をあげているかを見るため，次の表のように評価の観点を定め、自然にかかわる体験活動を中心に教職員で評価を行った。

◇評価の観点

(1)　感動や感情の高ぶりに出会い、自然や社会への興味・関心、意欲の向上につながっているか。
(2)　疑問や問題意識が生じ、解決のための見方、考え方、迫り方などの能力や態度が育っているか。
(3)　体験を科学的、合理的にとらえ直し、知識や理解、学ぶ力や学び方を生み出すことにつながっているか。
(4)　各教科で学んだ知識や技能を総合し、現実の複雑な問題解決に結び付けようとしているか。
(5)　難しい問題に粘り強く取り組み、成就感や満足感、自己有用感や自尊感情を引き出しているか。
(6)　地域社会に役割をもって参加し、人と人との関係や在り方を学び取っているか。
(7)　感動や畏敬の念、挫折などの心の体験を通して、価値の判断力や選択能力が生じているか。
(8)　基礎的な体力や心身の健康保持増進に結び付いているか。
(9)　自らの限界に挑戦し、将来社会の中で生きて働く力を伸ばそうとしているか。
(10)　実際の社会の仕組みや現場を知り、社会のあるべき姿に関心を示しているか。
(11)　人に尽くし社会に役立つことが、相手に喜ばれ、気持ちがよいことだと感じているか。
(12)　他者と比較・競争するのではなく、自分は自分であり、自分なりにできることがあると考えているか。

5　学校支援委員会の組織・運営

（1）運営方針

本事業の推進に当たり、関係機関・団体等との連絡調整を効果的に進め、生徒が有意義な体験活動に取り組むことができるよう支援委員会を置くこととした。

（2）構成

氏　　名	勤務先又は機関・団体名	職　　名	備　　考
	洞爺高等学校	校　　長	
	洞爺高等学校	教　　頭	
	洞爺高等学校	事 務 長	
	洞爺高等学校	教　　諭	総務部長
	洞爺高等学校	教　　諭	教務部長
	洞爺高等学校	教　　諭	進路部長・総合的な学習の時間担当
	洞爺村教育委員会	社会教育係長	
	洞爺高等学校ＰＴＡ	会　　長	
		外部委員	豊かな体験活動講師
		外部委員	豊かな体験活動講師

6　推進地域としての取組

（1）「洞爺村豊かな体験活動推進地域協議会」の構成と役割

本協議会は、地域の実態を踏まえ、洞爺村教育委員会、推進校、関係行政機関、社会教育団体などの関係団体、企業等の関係者により構成し、次の事項について協議、情報交換等を行う。

ア　豊かな体験活動推進地域として推進校の取組等を通して実現したいねらい

地域の特性等を生かし、地域の自然や社会、文化、人などとかかわる多様な体験活動を通して、児童生徒に豊かな心や社会性、ねばり強くやり抜く態度などをはぐくむ。

イ　豊かな体験活動推進の重点

（ア）各推進校がそれぞれの実態に応じ、地域の教育資源を生かして、ボランティア活動など社会奉仕にかかわる体験活動、自然にかかわる体験活動、勤労生産にかかわる体験活動、文化や芸術にかかわる体験活動などを効果的に展開することができるよう環境づくりを進める。

（イ）学校教育と社会教育との連携・融合を目指し、関係機関・団体等の協力の下、児童生徒と保護者、地域住民が共に学ぶ体験活動を推進する。

ウ　推進校全体の連携や取組

（ア）各推進校の取組を交流し、その成果を村内外に発信する。

（イ）各推進校が連携して、地域の特性を生かした体験活動を企画する。

エ　児童生徒の学校段階・学年等に応じた体験活動を位置付けた教育課程の編成・実施

（ア）児童生徒の学校段階・学年等に応じた体験活動の特性やおさえを確認する。

（イ）それぞれの体験活動を通して育てたい資質や能力を明確にし、各教科等との関連などを踏まえ、教育課程への適切な位置付けを検討する。

（ウ）体験活動を効果的に推進する指導方法や評価方法について検討する。

オ　各推進校における課題の解決や成果の取りまとめ等

（ア）体験活動実施上の課題を明らかにし、その解決策を検討し、推進校を支援する。

（イ）推進地域及び各推進校の取組の概要や成果、課題の取りまとめを行うとともに、情報提供・発信の方法を検討する。

（2）本協議会における分科会の設置

本事業を円滑に実施するため、本協議会において、課題別の分科会を設置し、次の事項に取り組むこととする。

ア　データベース・ネットワーク推進分科会

（ア）地域の教育資源のデータベース化

（イ）地域人材、施設のネットワーク化

（ウ）推進校等の活動の成果の情報提供・発信
（エ）「豊かな体験活動推進強化月間」等の企画
・推進校が連携して取り組む体験活動の展開
・ホームページ等を活用してのリアルタイムによる各推進校の取組紹介

イ　教育課程検討分科会
（ア）「子どもたちの成長の過程と体験活動」一覧表の作成
（イ）家庭、地域社会と連携を図って実施する、共に学ぶ体験活動や学校外活動への発展性や関連性を踏まえた教育課程の編成・実施
（ウ）指導計画作成の基本的事項の確認
（エ）児童生徒の体験活動の評価、体験活動の計画や実施の評価の在り方の検討

7　活動の成果

（1）本事業と並行して行った学校改善への取組

地域の期待や要請を踏まえ、小規模校の特性を生かした魅力ある学校づくりに取り組んだ。

平成１３年度から、地域との連携をキーワードとした学校経営方針を打ち出し、次に挙げる項目について学校改善に取り組んできた。

ア　１７年ぶりの「学校の教育目標」等の見直しと改善
イ　２学期制への移行
ウ　完全学校週５日制へ対応する「洞爺ＤＡＹ」の創設と実施
エ　豊かな体験活動推進事業との関連を図った教育課程の編成
オ　選択制を基盤にした新教育課程の編成
カ　保護者や地域との連携を基盤とした学校支援母体づくり

（2）生徒の感想と教職員の評価

体験活動実施後の生徒へのアンケートには、体験活動の醍醐味を十二分に満喫できたという感想や洞爺村のよさを再発見できた感動、活動を支援していただいた地域の方々に対する感謝の気持ちなどが多く記されており、学校側が期待した通りの結果となった。

教師側の評価としては、生徒が成就感や満足感を得られていること、何事にも前向きに取り組もうとしている姿が見られるようになってきていることなどが挙げられた一方、学ぶ力や学び方を身に付けるための指導方法の工夫などが、今後の課題としてあげられていた。

8　今後の課題

（1）体験活動を通して、「どのような教育を推進し、学校を発展させるか」ということを念頭に置いて学校の自主性・自律性の確立を目指しながら、保護者や地域社会とより強いパートナーシップを築き、一層魅力ある教育活動を展開する必要がある。

（2）具体的・計画的な評価方法を一層工夫し、指導の改善に役立てる必要がある。